

三木城概略歴史年表

別所時代の三木城

別所氏は、播磨守護赤松庶流家に出自をもつ。三木城を築いたのは、三木別所氏の初代当主則治とみられます。長享2年(1488)、赤松政則が播磨・備前・美作の3か国を回復し、則治が三木郡久留美荘を拠点として、東播磨八郡を管轄する守護代に任じられてからと考えられます。

西暦	和暦	日付	出来事
1522	大永 2	10月6日	別所村治、浦上村宗に「別所館」を攻められたが、これを撃退する。
1529	享禄 2	10月3日	村宗に三木城が攻められ、「当城山下、於西之口合戦」におよんだが、反村宗派の牢人衆の活躍により持ちこたえる。
1530	享禄 3	6月29日	村治、柳本賢治とともに加東郡の依藤氏を攻撃するが、賢治が暗殺され、総崩れとなる。村治、三木城から退去する。
1531	享禄 4	6月頃	村治、三木城に復帰する。
1538	天文 7	11月20日	村治、尼子詮久方により「三木要害」を攻撃されるが、これを撃退する。
1539	天文 8	12月25日	村治、尼子方との戦況がふるわない播磨守護赤松晴政を三木城に迎え入れていたが、村治が尼子方に内通したとの噂が立ったことから、晴政は身の危険を感じ、三木城を退去する。
1554	天文 23	9月	三好長慶方、別所氏の属城7か所を落とす。
		11月	村治、三好方に三木城を攻められるが、持ちこたえる。
		2月	三好方が撤退する。この後、別所氏は三好方となる。
1567	永禄 10	9月	別所安治、三好三人衆の求めに応じ、約1000の兵を率いて奈良・大坂へ出陣。多聞城に籠る松永久秀を攻める三好三人衆の応援にあたる。
		10月10日	松永久秀が東大寺に籠る三好三人衆を攻め、これを破る。大仏殿等、兵火により焼失。別所安治軍、氷室山法雲院にいたが、自陣を焼いて播磨へ帰国。
1568	永禄 11	10月頃	別所安治、足利義昭の将軍就任を機に三好氏を離れ、織田信長に属す。
1569	永禄 12	8月19日	織田軍の播磨侵攻に、別所氏も従軍。
1570	元龜 1	1月	別所小三郎、信長の求めに応じ、上洛。
		10月以前	別所小三郎、浦上宗景に三木城を攻められる。
1572	元龜 3	4月以降	別所氏が信長と主従の関係を結ぶ。別所小三郎、信長からその偏諱「長」を拝領して長治を名乗る。
1577	天正 5	10月23日	羽柴秀吉、信長の命を受け播磨へ出陣する。
		12月3日	羽柴秀吉、上月城を攻略。上月城には尼子勝久、山中幸盛らを入れ、その女・子供・老人は人質として三木城に置く。
1578	天正 6	3月	長治、信長を見限る。秀吉、三木城へ押し寄せ、近隣に火を放つ。
		4月1日	別所方、秀吉に一味した細川荘の領主冷泉為純を攻める。為純が敗死。

西暦	和暦	日付	出来事
1578	天正 6	7月	神吉城・志方城(加古川市)落城。その後、織田信忠が、秀吉本陣となる平井山ノ上付城など付城数箇所を構築。(第1期の付城構築)※①
		10月15日	秀吉、「三喜之付城」で茶会を催す。
		10月22日	平井山合戦。別所治定(長治の弟)が討死。
1579	天正 7	2月	別所長治の「詫言」を信長が拒否。
		4月	織田信忠、新たに付城6か所を構築。(第2期の付城構築)※②
		5月	丹生山陥落。淡河城も落城。淡河城主、三木入城。
		6月13日	秀吉の軍師、竹中半兵衛死去。
		9月9・10日	平田大村合戦。安芸・雑賀・播磨の軍勢が、三木城への兵糧搬入を試みる。これに別所方からも兵を出し、秀吉勢と交戦する。秀吉方の谷大膳が討死。別所方も多数の武将が討ち取られる。
1580	天正 8	10月7日	秀吉、新たに付城を築き、三木城の包囲を狭める。(第3期の付城構築)※③
1580	天正 8	1月17日	長治ら、切腹し、三木城落城。その後、杉原家次が三木城主となる。
1583	天正 11	6月頃	前野長康、播磨国主羽柴秀長の配下として、「東郡三木城」に配される。
1585	天正 13	閏8月10日	中川秀政、摂津茨木城から「東郡三木城」に配される。
1592	文禄 1	10月	秀政、文禄の役時、朝鮮にて戦死。弟の秀成が三木城主となる。
1594	文禄 3	2月	中川秀成、豊後岡城主として国替。三木は豊臣氏の蔵入地となる。
1595	文禄 4	9月18日	但馬豊岡城主福原長成、三木の代官として雲龍寺に禁制を交付する。
1600	慶長 5		関ヶ原合戦後、池田輝政が姫路城主となる。三木城は姫路城の支城となり、家老伊木忠次が三木城主となる。
1603	慶長 8		伊木忠次死去により、子の長門守忠繁が跡を継ぐ。
1615	元和 1		一国一城令が命じられる。これにより三木城も廃城の運びとなる。
1617	元和 3		小笠原氏が明石に入部。それに伴い、明石築城の間、家臣団が三木に居住。
1620	元和 6		小笠原家臣団が明石に移住。これにより、在郷町三木が成立する。

※①三木城攻めへの足がかりとするため、三木城の東から北側の丘陵上に付城を構築
 ※②毛利軍の兵糧搬入を阻止するため、南側の山上に付城及び包囲網のための土塁を築く。
 ※③三木城を力攻めで攻略するため、主要街道を押さえた最前線の付城を構築